

令和7年2月14日

学校評価(自己評価)公表シート

社会福祉法人 アタラシイカタチ

幼保連携型認定こども園 昭和やまとこども園

1. 本園の教育・保育

教育・保育目標

＜生き生きとした子どもを目指して＞

- ・丈夫で体力のある子ども
- ・元氣よく友だちと遊べる子ども
- ・自分のことは自分でできる子ども
- ・自分の主張をはっきりとすることができ、みんなで力を合わせることを大切にする子ども
- ・自然に目を向けられる子ども
- ・感動し、驚き、疑問を持ち考え、表現できる子ども

教育・保育方針

- ・家庭的な雰囲気の中で、情緒の安定を図り、伸び伸びと遊びや生活ができるようにする
- ・基本的生活習慣を身につけ、生きる力の基礎を培うようにする
- ・自己を発揮し主体的に表現できる環境を整える
- ・家庭や地域との連携を深め、園児の育ちを共に支え合えるようにする

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目を設定し、それらに沿って自己評価を実施し、職員が主体性を持って客観的に自園の教育内容・保育内容をチェックし、重点項目について点検と改善に取り組む。

3. 評価項目の達成と取り組み状況

評価項目	取り組み状況
こども園の教育・保育理念や方針に沿って教育・保育課程を編成している。	職員で園内研修や職員会議等で教育・保育過程の見直しを行った。園の教育・保育理念に沿った全体的な計画になるように作成している。
指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成されている。	指導計画作成において教育・保育要領等をもとに子どもの姿を観察し子どもの成長に合わせて計画を立てられるようになってきている。保育実践に取り組むことで、子どもの実態に則した計画が立てられるよう取り組んでいる。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育教諭は、毎日に観察や記録をもとに子どもの実態を把握し、話し合いながら具体的な実践に努めている。

毎月、各クラスの成果と課題を報告し、確認している。	毎月の月案、週日案で反省評価を行い、園長・主幹と話し合しながら次の保育につなげている。職員会議で職員間の共有をしている。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どもに寄り添い、良さを認め、保育教諭が客観的に見る目を養うように努めている。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自ら選んで遊ぶことができ、それを発展させて友達と協力して遊んだり、工夫したりできる環境づくりを探りながら進めている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	一日の生活の流れの中で、個々の成長に合わせて基本的な生活習慣が身に付くように努めている。また、保護者への協力の呼びかけをしている。

教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	職員会議の中で、研修の報告会を行い、事例の研究や取り組みなどの情報交換をしている。研修担当の職員が定期的に園内研修を企画し、職員同士が意見を交換し、考察できるようにしている。
園だよりや各種研修会を通して、子ども園の情報を発信していく。	日々の保育の中で、実際の遊びの様子や子どもの成長をコドモンで配信。園だよりで保育の内容を伝える。地域の方を招いて園の様子を見ていただいたり、SNSを活用して行事の様子などを配信している。
保護者のニーズの把握のために、要望や苦情に適切に対応をはかる。	年間1回の個人懇談、年1回の保護者アンケートの実施、年3回の参観、運動会、発表会などの行事を行い、子どもの様子を見ていただけるようにしている。また、個々に育児相談を行い、保護者と連携をとりながら進めている。苦情に関しては担当を決めて対処している。また、問い合わせについては随時対応している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について教職員が研修などで趣旨や意味を理解し、適切に自己点検や自己評価に取り組む姿が見られた。また、園内研修で職員同士の振り返りを話し合った。今後も自らの教育や保育を日々振り返りながら、反省や改善を繰り返し、充実した教育・保育を実施していきたい。また、各種の課題や目標についても概ね達成ができつつある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全教育と安全管理	地震などの自然災害への対応と計画・準備、また不審者等への対応など、危機管理マニュアルの徹底と日頃の訓練を通して職員の意識の向上を図る。新園舎という新しい環境下での安全教育の見直しをする。環境担当職員を中心に、安全点検を行いヒヤリハット事例を職員会議で共有し、改善策

	を講じている。
自己点検・自己評価	人権擁護のためのセルフチェックリストを使って一人一人を大切に する保育の自己点検をし保育の見直しを心がけた。 今後も各職員においてさらに課題を設定し、自己研鑽に取り 組むようにする。
指導計画の編成	教育・保育要領、園の目標をもとに、子どもの実態に則した 指導計画の作成を行う。